

【阿見町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月）等を踏まえ、阿見町では目指す学びの姿を「時代の変化に対応する能力を育む」とする。具体的には、1人1台端末・クラウドツールなどを活用し、児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて、いつでもどこでも学ぶことができ、ダイバーシティ社会で一人ひとりの能力を十分に発揮できること、児童生徒一人ひとりの反応を踏まえた双方向の一斉授業を行いながら、一人一人の教育的ニーズや学習状況に応じた個別学習を行い、すべての児童生徒が情報の編集を経験しながら多様な意見にも即座に触れられること、多様な学び且つ主体的・対話的で深い学びができることを目指す。

2. GIGA第1期の総括

阿見町では、これまで1人1台端末の整備と共に、校内などの通信ネットワーク、電子黒板の整備を進めてきた。授業での端末活用も徐々に進んできており、学習支援アプリを活用してのプレゼンテーションの実施や、デジタルドリル等を活用することで個人の理解度・進度に合わせた学習が行われている。また、ICT支援員のサポートを受け、端末を活用した授業が行われている。一方で、教職員のICTを活用した指導する能力については、教職員の意識・スキルといった面で学校内又は学校間での格差がある。今後、より一層1人1台端末の利活用を進めていくには端末、通信ネットワークや周辺環境等の整備に加え、教職員のICTを活用した指導力の向上が求められると考えている。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末の利活用を進めていくにあたり、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持していくと共に、1人1台端末の利活用方策として以下について検討していく。

○児童生徒が協働的な学びを進める場面において積極的にICTを利活用できるよう、教職員が実施する校内研修で、ICT活用に係る実践事例等の検証を行う。

○児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組むことができるよう、教職員のICT活用指導力の向上を目指し、ICT活用(学習支援ソフト、デジタルドリル、デジタル教科書など)に関する研修をサービス提供会社と連携を図り、支援員を招いて実施する。

○教育相談センター及び校内フリースクールにおいてICT活用を推進する。

○特別な支援を要する児童生徒について、特性に応じた支援アプリケーションを1人1台端末で利用できる環境を整備し、児童生徒の環境や状況に応じた活動を支援する。